

日 時： 平成 23 年 11 月 16 日（水）10：00～10：50

会 場： セコム SC センター4 階第 2 会議室

出席者：

<番組審議委員>

見城武秀委員 岡崎昌史委員 河野康之委員 五十嵐修委員 西海真理委員

<武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社（以下MMと略）>

福田治樹社長 妻井英夫常務取締役 古田信博取締役 金子俊治監査役

八代誠顧問 岡崎文生放送部マネージャー

<ジャパンケーブルネット（以下JCNと略）>

清田裕司西東京エリア室長

欠席者： 中山廣明委員 牧野洋子委員 大久保康雄委員

司 会： 高田（企画室課長）

書 記： 北川（企画室）

1 【開会の挨拶】

妻井英夫常務取締役

2 【社長挨拶】

コミュニティチャンネル（以下コミチャンと略）では、震災時など緊急時の対応に力を入れ、両市と協力しながら行政情報を流している。未だ会社の体制、両市との連絡方法や放送内容など反省する点もある。FMむさしのとの協力体制も検討し始めている。本日は局制作の番組、エリア制作の番組でも防災面で何が出来るのか、ご意見を頂きたい。

3 【各委員挨拶】

4 【議事】

[コミュニティチャンネル（MM制作）の取組]

◆岡崎放送部マネージャーより、配布した資料に沿って説明。

（「デイリー武蔵野三鷹の充実」「防災・安全安心情報の強化」「地域イベントの特番制作の充実」などについて）

- ・3月11日以降、地域情報の大切さを痛感している。年配の方はネットを使えない状況があった。
- ・市民モニター制度を設けており、市民からは「起こった情報」より、これからの「起こる情報」をもっと扱ってほしいという意見が多く寄せられた。
- ・地域イベントの特番化。イベント実行委員会と一緒に地域を盛り上げていく。

[コミュニティチャンネル（東京西エリア制作）の取組]

◆清田西東京エリア室長より、配布した資料に沿って説明。

- ・「キッズおしごと探検隊」「スーパーなわとびすと」「ちょっと寄りたいこんな店」「逸品刑事」「ビタミン寄席」「道草の達人」「ハッピーラボ」「ハッピーナビ」
- 以上の8番組の紹介を資料に沿って行う。

- ・今後もグループ会社で共有できるコンテンツを提供し局をサポートしていく。

5 【各委員の意見】

- ・震災は起こることとして考えた方が良い。今後コミュニティメディアの重要性が益々

高まる。番組作りも地域性を高めることが必要。

- ・震災時、ネットはすぐにサーバーダウン。ツイッターは若者が中心。防災無線は聞こえないエリアもあり、市民は不満足。武蔵野市・三鷹市ともに放送車で回った。そんななかCATVは力強いメディアであった。CATVに繋がっている安心感があり、今後、市としても情報（受発信）の柱となりうる。
- ・お願いしたいのは、生活情報をどうやって流すのかしっかりシミュレーションしておいて欲しいこと。また、市から提供された情報を流すだけでなく、市に対して市民に必要な情報を積極的に求めていって欲しいこと。
- ・3月11日以降の震災の備えについて。災害時だけでなく、災害前にどう備えればよいかといった情報も流して欲しい。
- ・局制作、エリア制作と多様性があるのは良いが、地域としては局制作の番組が重要。割合やバランスは望ましいのか。
- ・商店街の活性化につなげるようCMをもっと入れてもいいのではないか。
- ・ニュースの取り上げ方について。一つの事柄について異なる意見があるときは、両方をしっかり取材し、慎重な扱いをして欲しい。

6【まとめ】

- ・今後は普段から防災についての広報活動を行っていく。防災番組のシリーズ化も検討していく。
- ・現在、放送枠の5割は局制作だが、今後はもっと局制作の割合を増やしていく。また、今後はCMも増やしていく。

- ・ニュースの取り上げ方について。異なる意見がある場合は、両方を取り上げるようにしているが、ある番組で反映されていなかった。今後更に注意して制作していく。

以上をもって、平成 23 年度、第九回番組審議委員会は終了した。

以上